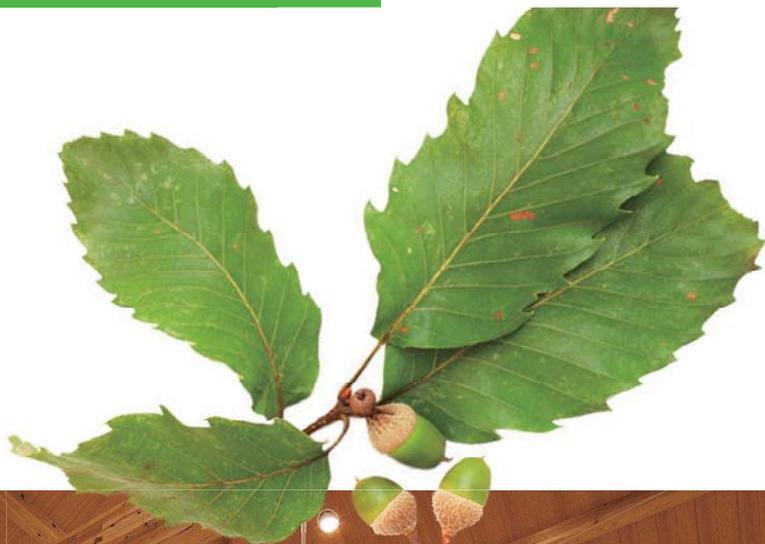


# 第70回全国植樹祭 基本構想

平成28年2月  
第70回全国植樹祭愛知県準備委員会



## 第2章 開催方針

### 1 開催理念

愛知県は、日本のほぼ中央に位置し、南は太平洋に面し、西部から南部にかけての一带は平坦で、濃尾平野、岡崎平野、豊橋平野が形成されており、東部には、三河山間部が広がるなど、多様な環境に恵まれています。

また、中京工業地帯の中心として、航空宇宙やファインセラミックス、エレクトロニクス等の先端産業や自動車産業等、世界でも有数な産業集積を誇り、製造品出荷額が、昭和52年以来38年連続で全国第一位を誇る「日本一のものづくり県」です。

本県の「ものづくりの歴史」を振り返りますと、江戸時代において、名古屋では、木曾川を経て運ばれてくる良質な木材の一大流通拠点であったことや、名古屋城築城の際に集められた職人が定住化したことから、木材を利用した街づくりはもちろんのこと、「からくり人形づくり」や「山車」、「家具製造」などを通じて、「木材を利用する技術」が培われました。

明治時代においては、こうした「木材を利用する技術」から発展した、時計、鉄道車両、合板、楽器、航空機、織機などの近代産業をもたらし、本県の工業発展の礎となっています。まさに、木材の利用は、本県のものづくりの原点となっています。

一方、本県の「森林<sup>もり</sup>づくりの歴史」につきましても、古くは、自然に育った幼樹を採取し、苗木として植樹していました。

江戸時代から明治時代において、三河地方を中心に、種から苗木を育てる技術が発達し、容易にかつ多くの苗木を確保することが可能となり、植樹が進みました。また、尾張地方を中心に、燃料としての森林の伐採等によりハゲ山が広がっていましたが、尾張藩による植樹やヨーロッパの技術を取り入れて実施された治山事業などにより復旧されました。

戦後においては、復興の際に伐採された森林の緑化促進や高度成長期の木材需要の高まりを背景に、植樹が進められました。

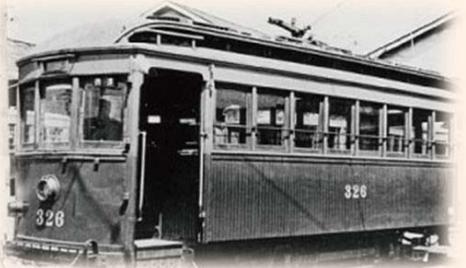
こうした先人の方々のたゆまぬ努力が礎となり、現在は、県土面積51万6千haのうち21万9千haが森林となっています。



からくり人形



山車



鉄道車両

名鉄資料館所蔵



針葉樹林



広葉樹林

また、人工林の割合は64%で、全国平均の46%を大きく上回り、人工林のうち、成熟して利用できる時期に達している森林の面積は76%と全国平均の52%に比べて大きな割合を占めています。

このように、森林資源が充実し、本格的な利用期を迎えている今こそ、木材利用を推進していくことが重要です。

木材の利用は、林業・木材産業を活性化するとともに、森林整備を促進することから、水を蓄え山崩れを防ぐなど、森林の有する多面的機能の持続的な発揮につながります。

さらに、木材の持つ柔らかさ、温かさといった特性は、快適で健康的な生活環境をもたらしてくれます。

このため、本県では、名古屋市を中心とした大消費地を抱える特性を生かし、住宅や公共建築物、街なみ等都市部への木材利用の取組を広げていきます。

また、成熟した森林を伐採・利用し、植樹をして次世代の森を造っていく「循環型林業」や、森や緑を守り育む「あいち森と緑づくり事業」を推進することにより、多面的機能を持続的に発揮できる森林づくりを加速していきます。

こうしたことから、第70回全国植樹祭は、以下の理念により開催します。

### 第70回全国植樹祭開催理念

私たちは、「木材の利用」を山村と都市をつなぐ架け橋とし、  
健全で活力のある「森林づくり」と「都市づくり」を進めていきます。

木材利用の事例



愛知県立芸術大学(長久手市)



ウッドデッキ(名古屋市)

# 第72回全国植樹祭

## 基本構想

平成30年3月

第72回全国植樹祭 滋賀県準備委員会

## 第2章 開催理念

日本列島のほぼ中央に位置する滋賀県は、琵琶湖を中心に抱き、周囲を山々に囲まれた水と緑が豊かな県です。雄大な山々とその頂から眼下に広がる壮大な琵琶湖は、我が国最大の湖ならではのダイナミックな景観を形成するとともに、多種多様な彩りを見せる森林と碧く輝く琵琶湖は、一体となって四季折々の風景を作り出しています。



山々に降り注ぐ一滴は、やがて川となって田畑や里地を潤しながら、琵琶湖へと流れ込み、琵琶湖の豊かな生態系を育てています。県土の2分の1を占める滋賀の森林は、琵琶湖の水源として貴重な役割を果たすとともに、土砂の流出を防ぎ私たちの生活や財産を守るなど、様々な恩恵を与えてくれています。また、400万年もの歴史を有する琵琶湖は、私たち滋賀県民と琵琶湖の下流域に住む京阪神1,450万人の暮らしを支える水源であるとともに、60種以上もの固有種を育む貴重な自然環境および水産資源の宝庫となっています。

森林と私たちの暮らしのかかわりを振り返ると、古代より、奈良や京都そして滋賀の壮麗な宮殿・社寺の建設には、滋賀の木材が多く利用されてきました。また、中世・近世・近代にかけて、人々は貴重な森林資源を巡り、争い、話し合い、力を合わせるというドラマを展開してきました。一方、県内には山村地域を中心に多種多様な森林文化が根付いています。木を植え、育て、伐って利用し、また植えるという先人たちの取組は、まさに持続可能な森林づくりの礎であり、現在に暮らす私たちもしっかりと次の世代に受け継いでいく必要があります。また、「せっけん運動<sup>※1</sup>」をはじめ、湖岸の清掃やヨシ刈りなど琵琶湖の環境保全に熱心に取り組む姿勢や、琵琶湖の下流域で水を利用する人々を気遣う思いやりの精神は、滋賀の県民性として私たちの暮らしの中に定着しています。



森-川-里-湖のつながり

※1 セっけん運動：琵琶湖で1977年（昭和52年）5月に淡水赤潮が大規模に発生し、この淡水赤潮の原因の一つが合成洗剤に含まれているリンに起因していたことから、県民が主体となって合成洗剤の使用をやめ、粉石けんを使うとした運動。

このような中、「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」において、琵琶湖が「国民的資産」と位置づけられました。また、国連で採択された「SDGs（持続可能な開発目標）※2」の視点も活かしながら、本県として持続可能な社会の実現を目指していくこととしました。これらを踏まえて、様々な主体との協働により、琵琶湖を保全・再生するとともに、その水源である森林を守り、育て、そして木材として積極的に使うことで、持続可能な滋賀の森林づくりを推進していくこととしています。

私たちは、第72回全国植樹祭の開催を通じて、県民一人ひとりが山や木に直接触れ、森林について考える機会を増やすとともに、森林・林業や山村に対する意識醸成と県産材の利用促進、将来を見据えた持続可能な森林づくりなど、県民が一丸となって森林を「守る」、「活かす」、「支える」本県らしい取組を進めていきます。

これらのことを踏まえ、以下の開催理念のもと、第72回全国植樹祭を開催します。

## 第72回全国植樹祭開催理念

私たちは、ふるさと滋賀の地域特性である「森—川—里—湖」のつながりと、いにしえより培われてきた「森林」、「びわ湖」、「人（暮らし）」のかかわりを再確認し、将来を見据えながら森林を守り、活かし、これらの取組を支えることで、碧（あお）く輝くびわ湖と健全で緑豊かな森林を、次の世代、その次の世代へと持続的につないでいきます。

---

※2 SDGs（持続可能な開発目標）：平成27年（2015年）9月の「国連持続可能な開発サミット」で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた17の目標から構成される人間、地球および繁栄のための行動計画。目標の一つである「陸の豊かさを守ろう」には、内陸淡水生態系の保全や森林の持続可能な管理等が掲げられている。

## 第3章 開催方針

### 1 基本的な考え方

---

- (1) 全国植樹祭を通じて、開催理念や本県の魅力等を最大限に発信します。
- (2) 県民総ぐるみで全国植樹祭を盛り上げ、全国から参加される皆さんを「おもてなしの心」でお迎えします。
- (3) 全国植樹祭の開催にあたっては、経費の節減に努めながらも、多様な主体と連携しながら、県民の皆さんと森林に関わる人々の心に残る、将来を見据えた効果的な大会となるよう努めます。

### 2 大会テーマ

---

第72回全国植樹祭の開催理念をあらわし、開催機運を高めるような「大会テーマ」を公募により選定します。

### 3 シンボルマーク

---

第72回全国植樹祭の開催機運を高めるような「シンボルマーク」を公募や既存キャラクターの活用等により作成します。

### 4 大会ポスター原画

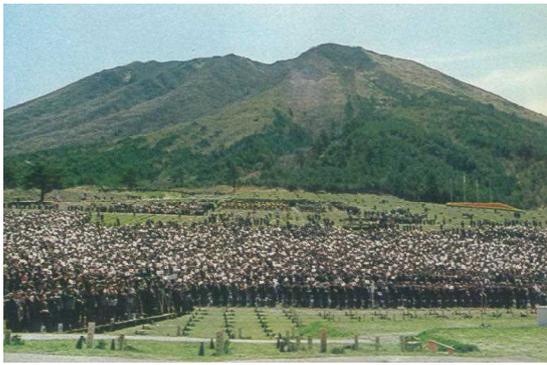
---

第72回全国植樹祭の開催機運を高めるような「ポスター原画」を県内の小中高校生等から募集し選定します。

# 第71回全国植樹祭 基 本 構 想

平成29年8月2日

第71回全国植樹祭 島根県実行委員会



【昭和46年(1971年)4月16日 大田市三瓶山北の原において開催された第22回全国植樹祭】

## 第2章 開催方針

### 1 開催理念

本県は、県土の約8割を森林が占る全国有数の森林県です(森林率：全国第4位)。本県では、古くは、「たたら製鉄」で使用される木炭生産を繰り返すため、森林の循環利用が成立していました。戦後、積極的に造成された人工林が利用期を迎えつつある今、生産される木材を暮らしの中で積極的に利用するとともに、伐採後の森林を適切に更新することが重要な課題となっています。本県で開催する全国植樹祭では、こうした新たな緑の循環を進める決意を全国にアピールします。

また、全国植樹祭の開催を通じて、森林や林業の役割を再認識するとともに、県民参加の森林づくりを拡大する契機とします。

併せて、本県の豊かな自然や人々の営みが創り上げてきた文化（古代神話、「出雲大社造営」や「たたら製鉄」における木材利用等）など、本県の特徴や魅力を全国に発信します。

### 2 島根県の特徴を活かした大会の基本方針

#### (1) 健全で豊かな森林を将来に引き継ぎ、林業の成長産業化へつなげていく大会

##### ① 循環型林業の実現に向けた木材利用や森林づくりの発信

戦後、植林された森林が利用期を迎え、主伐による原木増産、木質バイオマスの安定供給等の積極的な木材利用、低コスト造林により、循環型林業の実現を促進します。

## ② 県民参加の森づくりの推進

水を育む緑豊かな森を次世代に引き継ぐため、平成17年度に「島根県水と緑の森づくり税」を導入し、県民参加の森林づくりを積極的に推進してきました。

全国植樹祭に向かって、より多くの県民の方々に参画いただきながら開催の機運を盛り上げ、この開催を契機として、県民参加の森づくりを更に広げ、本県の豊かな森林を県民共有の財産として次代に引き継ぎます。

## (2) 島根県の歴史文化や豊かな自然等の魅力発信

本県は全国有数の森林県であり、また、長い海岸線を有するなど、優れた自然の風景地が各地に存在しています。

また、かつて、出雲大社本殿は巨大な丸太を柱に使用した木造の高層神殿であったこと、たたら製鉄や石見銀山の銀精錬、家庭用燃料（明治以降）として木炭生産が盛んに行われ、森林を薪炭林として循環利用していたことなど、森林や木材と人の営みの歴史があります。

さらに、本県は「古事記」や「日本書紀」に描かれた日本発祥にまつわる神話の舞台でもあり、多くの伝説や伝統文化、史跡等が残されています。第71回全国植樹祭の開催が予定されている平成32年は「日本書紀」編纂1300年の歴史的な節目の年に当たることもあり、本県の歴史・地域文化や観光資源等にも光を当て、全国に向けて情報発信します。

## 3 大会テーマ

第71回全国植樹祭の開催理念を表し、開催機運を高めるような「大会テーマ」を全国から公募し選定します。

## 4 シンボルマーク

第71回全国植樹祭の開催機運を高めるため、本県の「水と緑の森づくり」のイメージキャラクターである「みーもくん」「みーなちゃん」等の既存キャラクターの活用も検討し「シンボルマーク」を作成します。



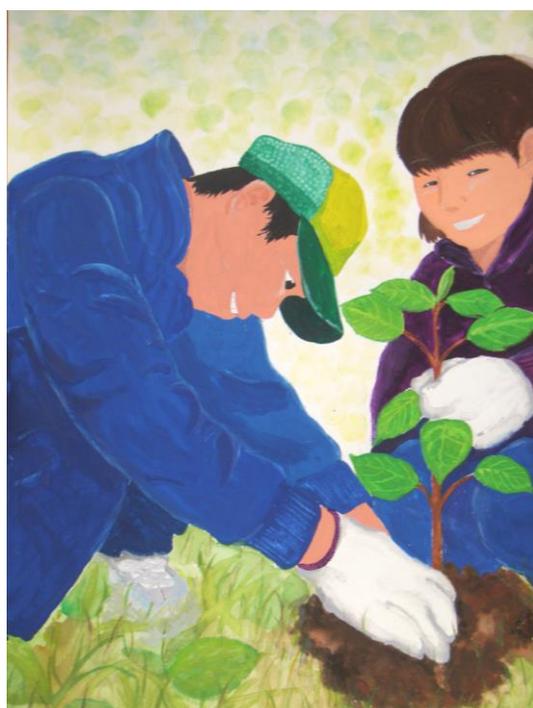
みーもくん

みーなちゃん

〔平成17年度に県の独自課税である「島根県水と緑の森づくり税」を導入し、県民参加の森づくりを進めています。この取り組みを幅広くPRするため、イメージキャラクターとして「みーもくん」「みーなちゃん」が公募等により設定されました。〕

# 第 73 回全国植樹祭

## 基 本 構 想



平成 31 年用国土緑化運動・育樹運動ポスター岩手県コンクール  
中学校の部 最優秀賞  
北上市立江釣子中学校 1 年 藤田若葉さん作

令和元年 5 月

第 73 回全国植樹祭 岩手県準備委員会

## 第2章 開催方針

### 1 開催理念

#### 【開催理念】

- (1) 県民総参加による森林づくりと、森林資源の循環利用を推進します。
- (2) 森林の恩恵を県内外にアピールし、健全で豊かな森林を次の世代へ引き継いでいきます。
- (3) 世代を越え県を越え全国の皆さんが参加できる植樹祭にします。
- (4) 感謝の気持ちを込めて東日本大震災津波からの復旧・復興の姿を国内外へ発信します。

「開催理念」は、第1章「基本構想策定の趣旨」と以下に記述する岩手県の森林・林業の状況や歴史・文化の背景等を踏まえ、林業の持続的で健全な発展や森林の多面的機能に対する理解醸成を図るとともに、震災復興に向けた姿を国内外へ発信しようとするものです。

この植樹祭がレガシーとなるよう、豊かな森林を次の世代に引き継ぎ、森との繋がりを再認識していく契機としていきます。

本州北部に位置する岩手県は、本州一の森林面積を有し、スギ、アカマツ、カラマツ、広葉樹がバランスよく生育し、全国有数の森林県となっています。

秋田県との県境には奥羽山脈が南北に走り、これと平行して東部には北上高地が広がり、この二つの山系の間を北上川が南流し、その流域の肥沃な平野は広大な稲作地帯となっています。

沿岸部は約700kmに及ぶ海岸線を有し、三海流が複雑に交錯しており、森の養分が川を通じて海に注ぐことで、良好な漁場を形成し、古くから世界三大漁場の一つ「三陸漁場」として知られています。

森林からの清らかな流れは、生活用水や田畑を潤す農業用水に活用され、豊かな漁場を育むとともに、ものづくり産業を支える工業用水にも広く利用されるなど、県民生活の向上や産業の振興に寄与してきました。

また、県の木に指定されている南部アカマツは、幹が通直で、年輪やキメが細かく、材色が優美で、全国の神社・仏閣等で広く利用されるとともに、平泉の文化遺産の構成資産である毛越寺や日本百景の一つに数えられる狛鼻溪などでは、美しい景観を構成しています。

明治日本の産業革命遺産である橋野鉄鉱山の高炉燃料として利用されていた木炭は、今でも日本一の生産量を誇り、全国各地に移出され、現在は、アウトドア志向の中、レジャー用の燃料としても好評を博しています。

県北地域で盛んに生産されている生漆は、国内生産量の7割を占め、国宝や重要文化財の修復や浄法寺塗をはじめとする全国各地の漆器産地で利用されており、我が国の伝統文化を支えています。

このほか、家庭用燃料として評価が高まってきた薪を供給したり、山菜・きのこなどの恵みをもたらします。

また、ブナやミズナラに代表される落葉広葉樹（冷温帯林）が四季折々の彩り豊かな景観を創り出し、県民の暮らしに潤いと安らぎを与えるとともに、観光産業や健康、教育の分野で森林空間が利用され、森林サービス産業として位置づける動きが出てきています。

本県の森林と私たちの暮らしを振り返ると、恵まれた森林環境との関わり合いを通じて、衣食住を満たし、集落を守り、文化を築き、薪やバイオマスを利用した新しい産業が住民生活の安全・安心に役立つなど、自然と調和した生活が引き継がれてきました。

現在、戦後造成されてきた人工林資源が本格的な利用期を迎え、県内の集成材工場などの木材加工施設や製紙工場、更には木質バイオマス発電施設等の稼働により木材需要が増加し、伐採から造林、保育といった森林の循環利用を進め、持続可能な林業の展開を図ることが求められており、県、市町村、林業関係団体及び森林所有者等が連携して森林づくりに取り組んでいます。

一方、平成23年3月に発生した「東日本大震災津波」から8年が経過した現在、交流を力に、多様な主体の連携と県民みんなの参画により、被災者一人ひとりの復興を成し遂げ、より良い復興につなげられるよう取組を進め、復旧・復興の姿を全国へ発信する必要があります。

## 2 開催テーマ

---

第73回全国植樹祭の開催理念を表し、開催機運を高めるような「開催テーマ」を公募により選定します。

## 3 シンボルマーク

---

第73回全国植樹祭の開催機運を高めるため、国民体育大会やラグビーワールドカップ2019™のマスコットとして使用され知名度の高い本県のPRキャラクター「わんこきょうだい」の使用を基本とし、合わせて植樹祭のロゴマークをデザインします。



# 第74回 全国植樹祭 基本構想



令和2年4月改定

第74回全国植樹祭岡山県準備委員会



## 第2章 開催方針

### 1 開催理念

私たちは、第74回全国植樹祭の開催を通じて、「豊富な森林資源の循環利用」を進めるとともに、森林の持つ公益的機能の確保に努めます。

また、県民一人ひとりのさらなる緑化意識の向上を図り、豊かな自然を守り育てるための県民運動を拡大する契機とし、緑あふれる郷土を未来の子どもたちへつないでまいります。併せて、本県の歴史・文化など数多くの魅力を全国に発信します。

### 2 岡山県の特徴を活かした大会の基本方針

(1) 未来に向けて多様で豊かな森林を守り育て、人と森林の理想的なかかわりへつなげていく大会

○ 豊富な森林資源の循環利用による林業の成長産業化の実現に向けて、「伐って・使って・植えて・育てる」という林業のサイクルを活性化させるとともに、少花粉スギ・ヒノキ苗木による植替えや木材・木質バイオマスの利用を通じて、森林の公益的機能の確保を図ります。

○ 環境問題への関心の高まりから、県内各地で、森林保全活動に取り組むボランティア団体や企業等が増えています。今後、全国植樹祭に向け、より多くの県民の皆様に参加いただきながら開催の機運を盛り上げてまいります。

また、この大会を契機として、緑化意識の向上を図り、豊かな森林の緑をよりよい姿で将来へ引き継いでいきます。

(2) 岡山県の豊かな自然や歴史・文化等の魅力発信

○ 中国山地、瀬戸内海、三大河川など多彩で豊かな自然や、本県の気候風土に育まれた歴史・文化など数多くの魅力を全国に発信します。

○ 県外から訪れる多くの参加者に対して、関係者はもとより県民全体で「おもてなしの心」で対応し、岡山県にまた来たいと思われるような「温かみ」のある大会とします。